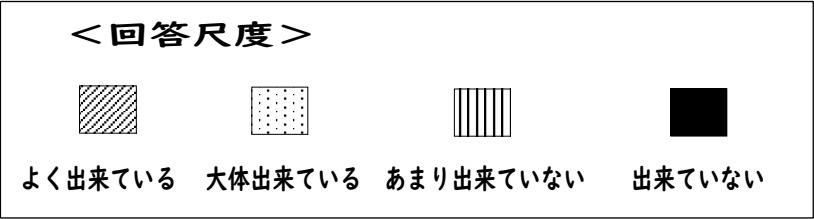


令和6年度（後半）

【学校評価アンケート結果について】

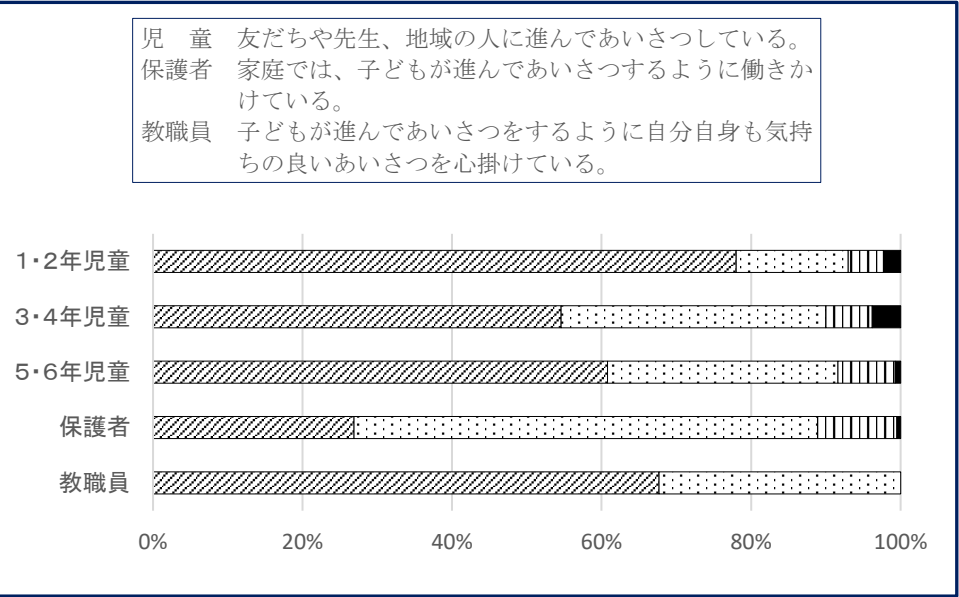
2月に実施いたしました学校評価アンケートの集計結果を、お知らせいたします。「1・2年児童」「3・4年児童」「5・6年児童」「保護者」「教職員」の結果をグラフで表しています。



このアンケートでは、本校の「目指す子ども像」に照らして、児童・保護者・教職員の視点から評価することを通して、日々の学校教育活動の成果と課題を見つめ、今後の改善の指針とさせていただきます。また「家庭・地域での子どもの様子」について調査することを通して、家庭・地域と学校との連携を深めていきたいと存じます。お忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございます。

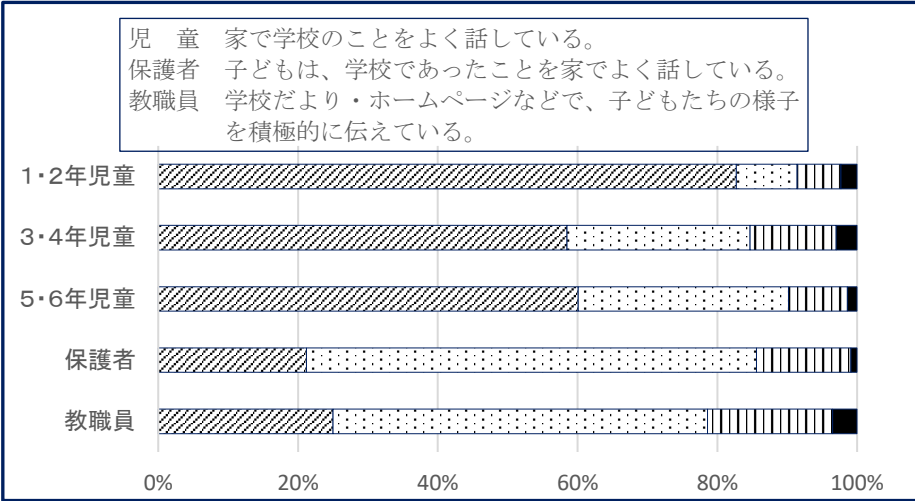
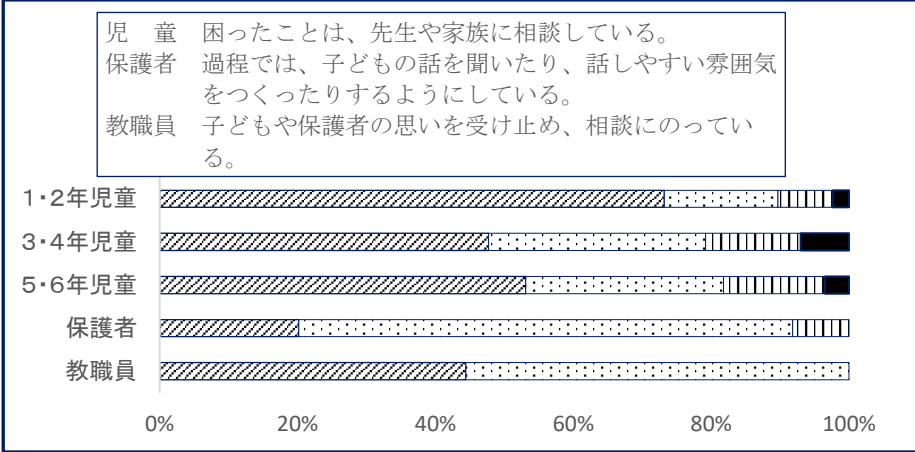
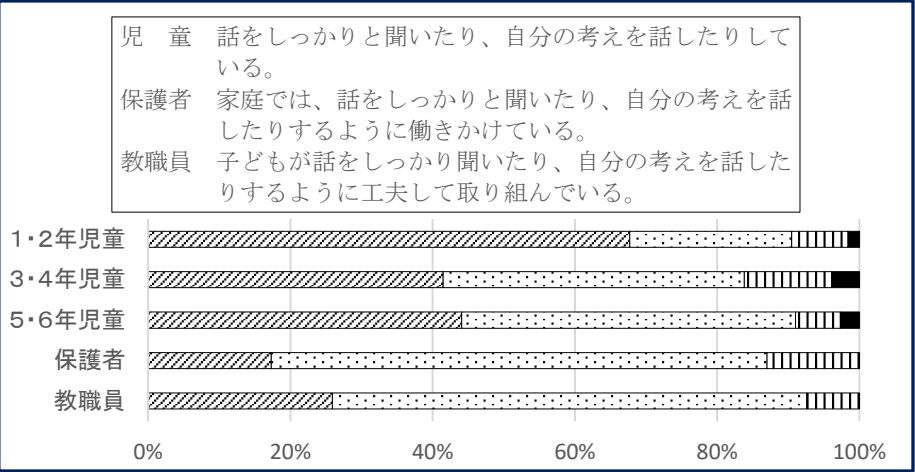
自分から素敵なあいさつができる子

『あいさつしている』という項目では、児童は「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせて90%以上、保護者の方も90%以上、教職員も95%以上の肯定的な回答がありました。毎朝校門では、教職員や児童があいさつを続けていることにより、自分からあいさつしようとする児童が増えてきています。この自主的に校門であいさつをする児童の姿を通して、他の児童もあいさつの大切さを理解し、あいさつの輪の広がりを感じています。今後も素敵なあいさつが広がるように児童・教職員共に自分から素敵なあいさつができるよう取組を進めていきたいと思います。引き続き、ご家庭や地域で、児童が自分から進んで素敵なあいさつができるような働きかけをよろしくお願いいたします。



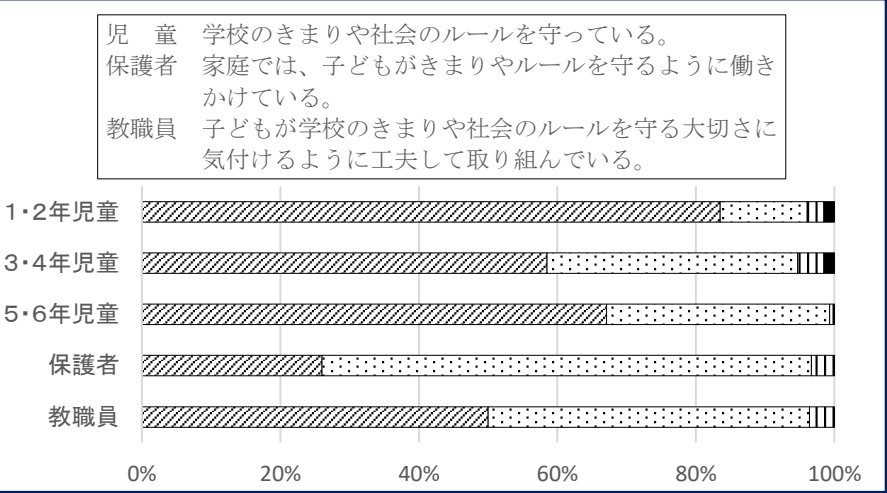
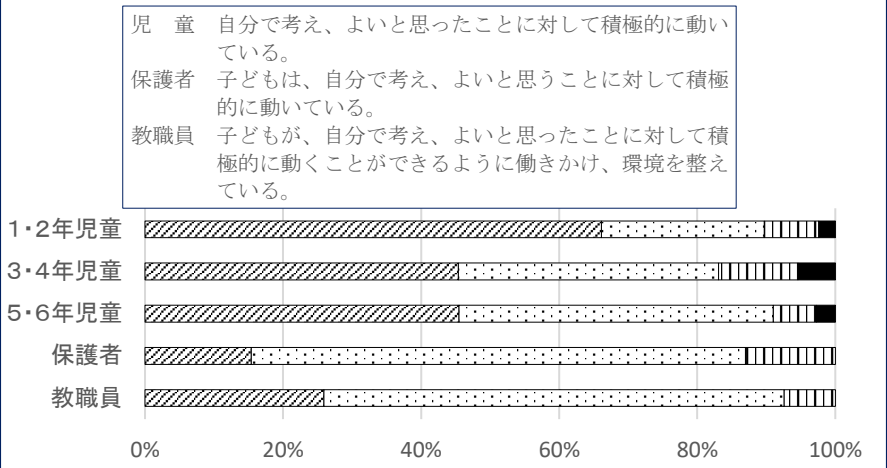
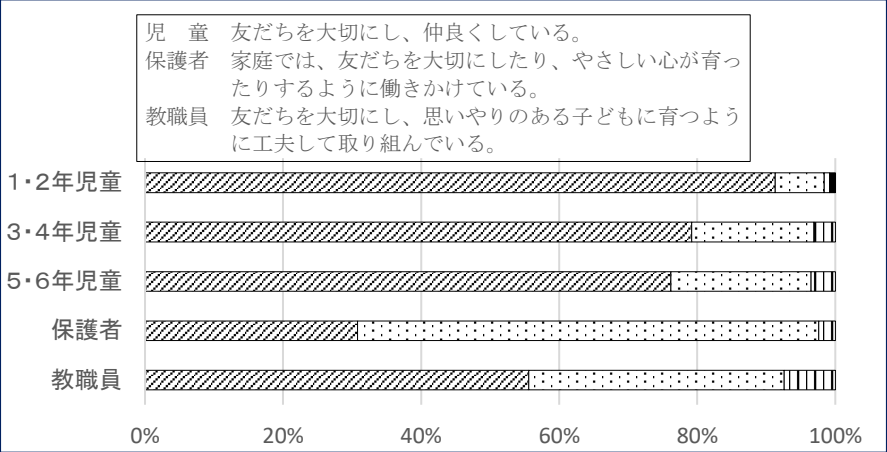
相手の思いを受け止めながら聞くことができる子

『話をしっかりと聞いたり、自分の考えを話したりしている』では、児童や保護者、教職員とも80%以上「よく出来ている」「大体出来ている」という肯定的な回答でした。まだまだ教師が子どもの力を引き出しきれておらず、今回このような結果がでたと考えられます。今後、学校では、的確に自分の考えを伝えることができるよう、日頃から学級の中で自分の思いや考えを話しやすい雰囲気をつくっておいたり、話し方を授業で学んだり、自分の考えをノート等に整理する習慣を身につけたりして、児童が自信をもって自分の考えを話せるよう働きかけていきます。「話を聞く」については、今後も繰り返し聞くことの大切さを授業で伝えていきます。『困ったことは先生や家族に相談している』や『家で学校のことをよく話している』の項目では、児童は80%以上、保護者の方は、90%以上肯定的な回答で今年度前半の結果よりも肯定的な回答が増えています。しかし困ったことを先生や家族に話せていないと思っている児童はいます。学校では、引き続き、子どもに寄り添ったり、話しやすい雰囲気をつくったりすることで子どもが「本当の自分を出せる」ような環境づくりに努めます。また「今日楽しいことあった？」等良いことに目を向けた問かけを行うことで、子どもが相談しやすく話しやすい環境づくりを構築していきたいものです。



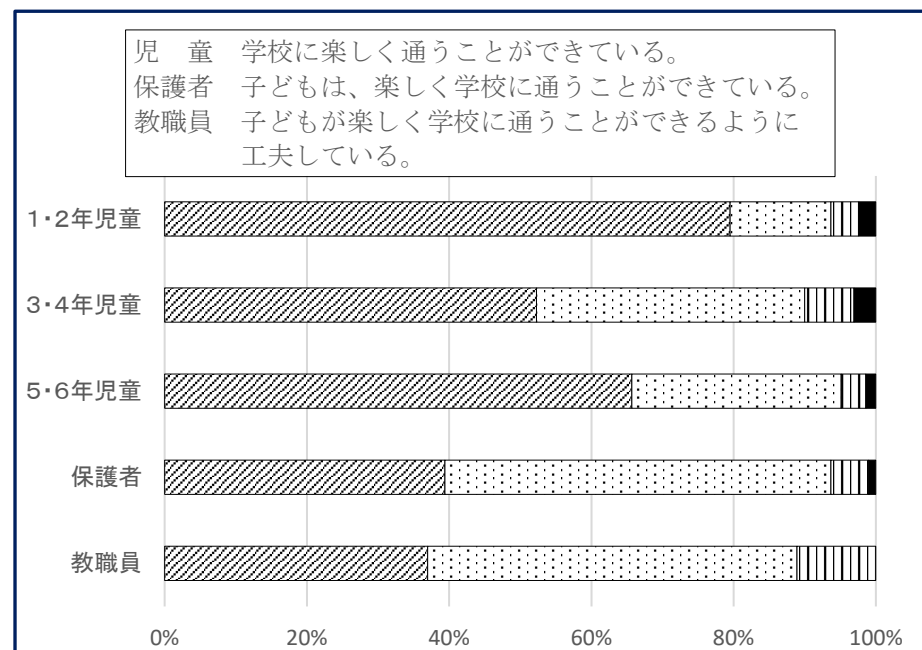
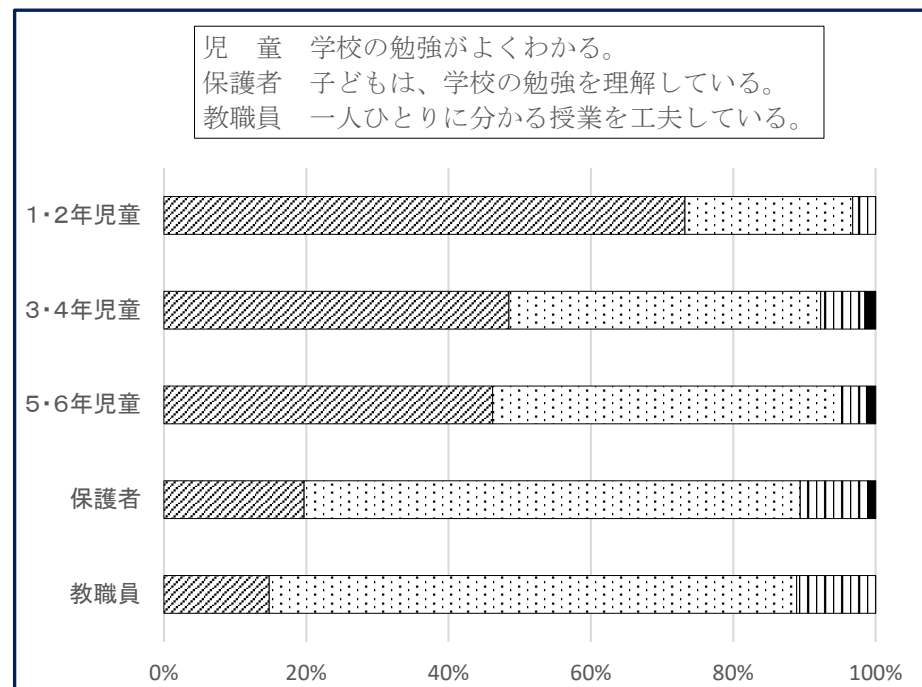
自分で考え、よいと思うことに対して積極的に動き出せる子

『友だちを大切にし、仲良くしている』という項目では、児童は「よく出来ている」「大体出来ている」という肯定的な回答は、95%以上ありました。今年度前半の結果よりもさらに肯定的な回答が増えていました。また肯定的な回答が、保護者も教職員も90%以上でありました。教職員は児童の成長や幸せを願い、目指す姿を高く設定している面はあります。学校では、子どもたち1人1人、自分が大切にされている実感がわくような環境作りに努めてまいります。『自分で考え、よいと思うことに対して積極的に動いている』という項目では、児童や教職員は90%以上肯定的な回答であったものの、保護者の方は、肯定的な回答が85%程度でした。今年度、学校では児童会活動で児童が活躍できる場を増やしています。今後も児童自らが動き出し、責任をもって活動できるような環境を整えていきます。『学校のきまりや社会のルールを守っている』では、児童・保護者は、「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせて、95%以上肯定的な回答がありました。しかし今回、教職員の肯定的な回答は80%程度となりました。きまりやルールを守ることは大変重要です。安心・安全な環境を整えることで、児童が自信をもち「よいと思うことに対して積極的に動く」ことが増えていくと想像します。今後ご家庭では、子どもがきまりやルールを守っていけるよう働きかけていただけるとありがたいです。



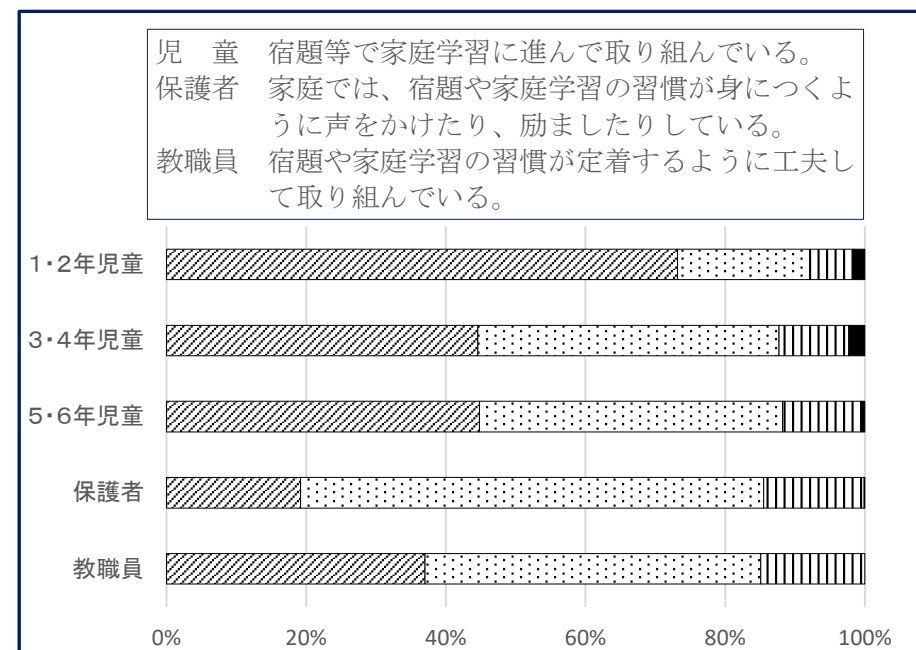
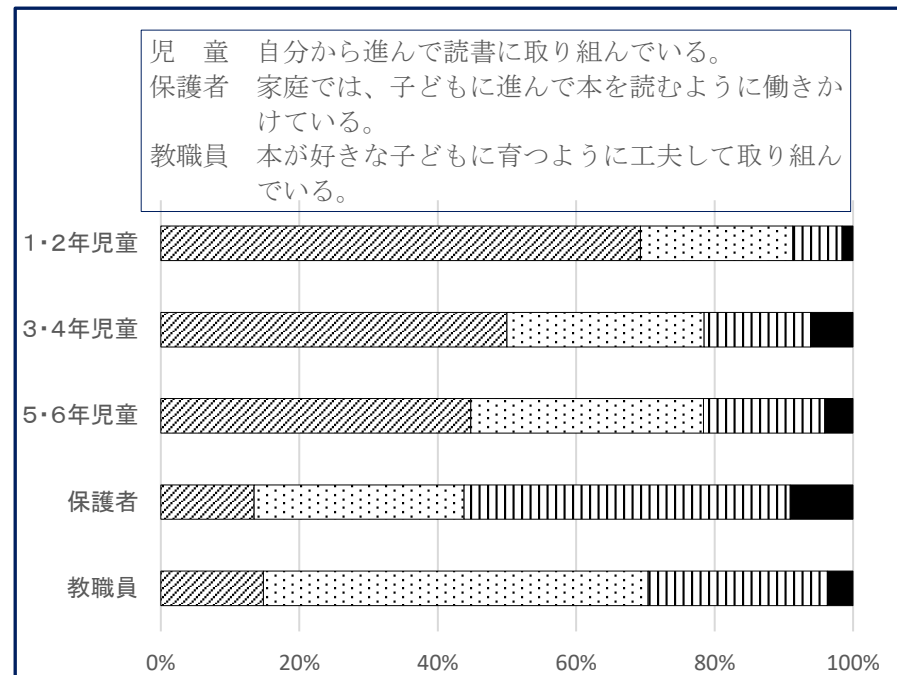
学び続けることができる子

『学校の勉強がよくわかる』という項目では、児童は「よく分かる」「大体分かる」が90%以上、保護者の方は90%以上肯定的な回答でした。特に保護者の方の肯定的な回答が今年度前半の結果よりも増えていました。教職員については、90%を少し下回る結果となりました。教職員は、児童が「分かる授業」ができているか日々、授業改善に向き合っているため、肯定的な回答が90%を下回ったのだと考えています。児童が日々の授業でワクワクし、学ぶ楽しさを実感できる授業作り、授業改善を進めていきます。今年度「対話型の授業」を通して、児童同士が考えを交流し合い、主体的に問題解決している姿は増えてきています。これからも児童が自分から学びたくなるような授業作りに努めていきます。『学校に楽しく通うことができている』という項目では、児童は「とても楽しい」「まあまあ楽しい」を合わせて90%以上、保護者も教職員も90%以上わが子や児童が楽しく学校に通えていると考えているようです。児童は、児童会活動やたてわり遊び等学年をこえて活動したり、休み時間を少し長くし遊んだりしたことで学校生活を楽しむ児童は増えました。今後もワクワクが止まらない魅力あふれる桂東小学校を目指し、児童主体の学校づくりを進めていきます。



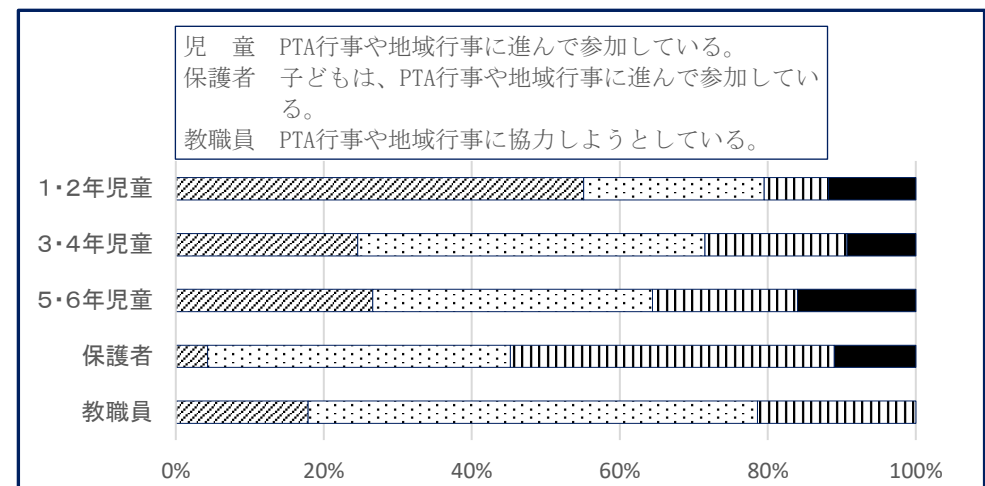
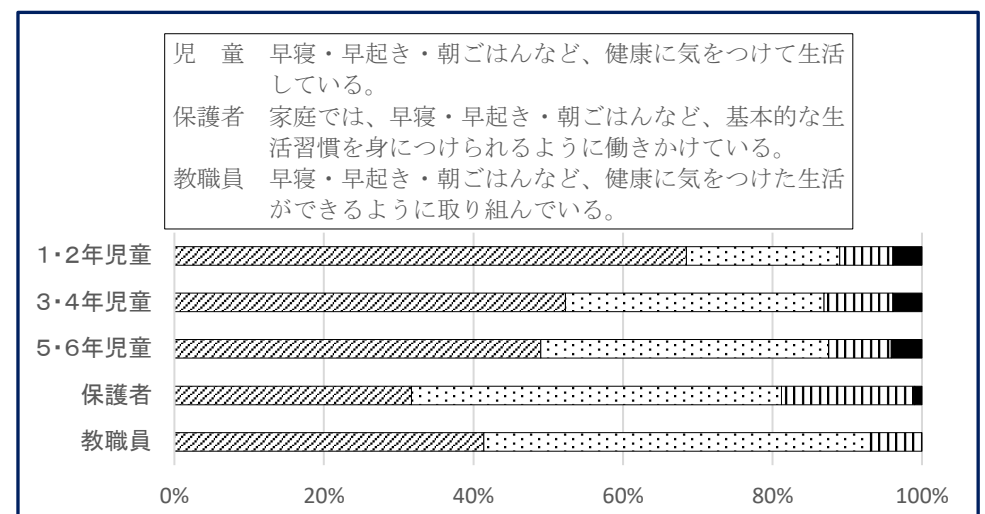
学び続けることができる子

『自分から進んで読書に取り組んでいる』という項目では、児童の肯定的な回答は1・2年生で90%程度、3～6年生については80%をきっておりました。また、教職員の肯定的な回答は60%程度、保護者の方の肯定的な回答は50%をきっていませんでした。学校では、図書室を利用する際に図書館司書が児童に本の読み聞かせをしたり、読書週間を中心に児童に読書の興味・関心を高める取組をしたりしてきました。しかし、取り組んできたことが児童自ら進んで読書をする姿にまだまだつながっていないということがアンケートの結果から読み取ることができました。今後、学級でも本の読み聞かせをしたり、お話を映像で見せたり、お話を音声で聞かせたり工夫することで本に対する興味を高めたいと思います。また、学校の教育活動の中で教師が児童の読書をする時間を確保することも大切だと考えます。『家庭学習に取り組んでいる』という項目では、児童・保護者共に85%くらい肯定的な回答がありました。また教職員の肯定的な回答は80%以上ありました。学校では、学校の宿題の内容や量、提出期限を工夫し、家庭学習に取り組みやすくすることも児童が進んで家庭学習に取り組めるようになる1つの方法だと考えます。ご家庭と学校が協力しながら宿題・家庭学習を進めていきたいです。



家庭・地域での子どもの様子

『早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気をつけて生活している』という項目では、「よく出来ている」「大体出来ている」が児童は85%以上肯定的な回答でした。また、今年度前半の結果よりも5～6年生の肯定的な回答が増えていました。保護者の回答については、肯定的な回答が80%程度となり、今年度前半の結果よりも少し肯定的な回答が減少していました。学校では、今後も保健便りや給食便り「もぐもぐ通信」で児童に健康的な生活習慣について考える機会を設けていきます。子どもも大人も、日々体調が良く、生き生きと生活したいものです。ご家庭でも生活習慣について話題にしてもらえるとありがたいです。『PTA行事や地域行事に進んで参加している』という項目では、児童は「よく出来ている」「大体出来ている」の肯定的な回答は学年により結果のバラつきが見られました。今年度の秋に実施された「桂川ふれあい祭り」では、たくさんの児童が参加している姿が見られました。保護者の方の肯定的な回答は50%以下となりました。児童が今後も地域行事等に参加することを通して、地域とのつながりを深め、ご家庭・地域・学校が一体となって桂東小の児童を育てていきたいです。保護者・地域・教職員が子どもを中心にし、互いを思いやり、たっぷりの愛情でつながる温かいチームとなって、児童の健やかな成長を育てていきたいものです。



総括

全体的な傾向としては、高学年の「できている」という実感が上昇傾向にありました。アンケートの結果から見て、1～6年生まで楽しく学校に通えているようです。また、5～6年生は、児童会活動等で前向きに主体的に活動をしています。今後も高学年の活動する姿が低学年や中学年の見本となり、自己肯定感を高め「できている」「できた」という充実感・達成感がもてるようにしていきたいです。自由記述欄では、学校に対する期待や子ども達の成長を願ったたくさんの温かいお言葉をいただきました。ありがとうございました！